



〔海の状況 (10/16~11/15) 〕

- ・ 神子地先の表面水温… 期間の始めは平年並み(平年差±0.5℃)で推移したが、以降は平年よりかなり低め(平年差-1.5~-1.0℃)で推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年よりかなり低め(平年差-1.5~-1.0℃)から平年よりはなはだ低め(平年差-2.0~-1.5℃)で推移した。(図2)

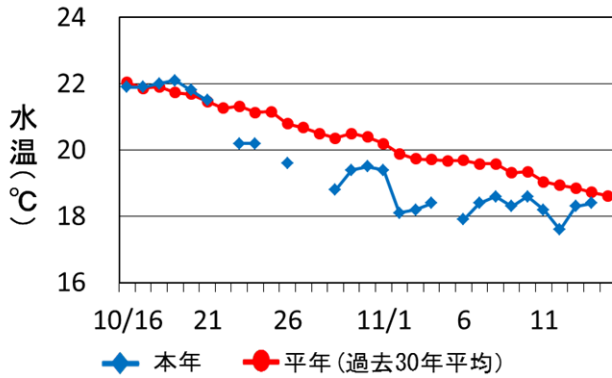


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

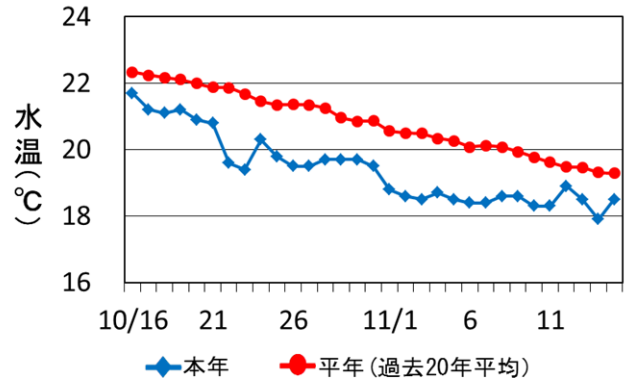


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、水深50mでは、兵庫県から石川県沿岸で20~22℃と前年より高くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖の冷水域の規模および接岸距離は昨年並みであった。(図3)

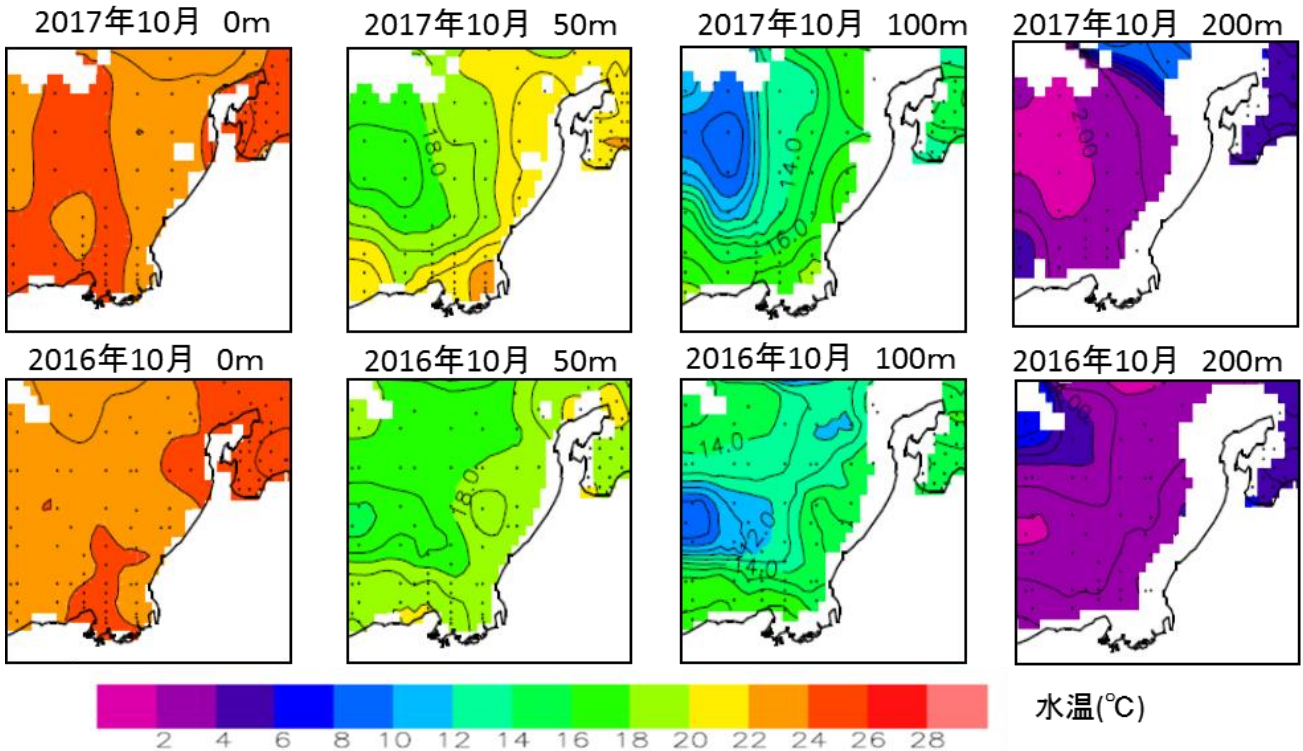


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

越前がにの漁模様

11月6日にズワイガニ漁が解禁されました。解禁された6日から15日の漁模様をお知らせします。

○期間中の操業延日数^{*1}は265日(前年：328日)で、操業隻数は71隻(前年：71隻)でした。

○漁獲量はズワイガニ(雄ガニ)36t(前年：34t 対前年比：105%)、セイコガニ(雌ガニ)81t(前年：100t 対前年比：81%)とズワイガニは前年を上回りましたが、セイコガニは下回りました。

○1kgあたりの単価はズワイガニ9,162円(前年：8,270円 対前年比：111%)、セイコガニ2,572円(前年：2,371円 対前年比：109%)とズワイガニ、セイコガニともに前年を上回りました。

○越前漁港での初セリでは、「越前がに極」^{*2}に46万円の値がつけられました。

漁獲量等のデータは福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。

※1 各漁船が期間内に操業した日数

※2 越前がにの最上級ブランド

(漁業管理グループ 家接 直人)

〔県内の漁模様：10月〕

2017年10月の県内の総漁獲量は980tで、昨年同月を359t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は598tで、昨年同月を409t下回った。カツオ類、シイラ、フグ類等は昨年同月を上回り、サバ類、ブリ類、サワラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は329tで、昨年同月を52t上回った。キダイ、キス類、アカエビ等は昨年同月を上回り、アカガレイ、その他カレイ、タコ類等は昨年同月を下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は53tで、昨年同月と同等であった。カジキ類、ケンサキイカ等は昨年同月を上回り、キダイ、アマダイ、ソデイカ等は昨年同月を下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差	魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
ウルメイワシ	2,808	37	1,194	2,771	1,614	ヒラメ	979	1,565	938	-586	40
アジ類	28,259	27,472	75,605	787	-47,346	アカガレイ	51,550	56,534	65,837	-4,984	-14,287
サバ類	20,515	43,708	12,498	-23,193	8,017	その他カレイ	20,850	26,297	35,942	-5,447	-15,092
マグロ類	1,088	202	2,362	886	-1,275	カマス	2,444	5,595	10,216	-3,151	-7,772
カジキ類	683	670	3,339	13	-2,657	アナゴ	4,705	6,609	7,394	-1,904	-2,688
カツオ類	6,610	865	6,477	5,745	133	メバル類	1,955	2,143	2,033	-188	-78
ブリ類	167,107	347,910	150,763	-180,803	16,344	キス類	41,465	14,689	20,651	26,776	20,814
(ブリ)	742	1,691	469	-949	273	スルメイカ	4,763	3,454	3,529	1,309	1,235
(ワラサ)	18,466	5,247	5,161	13,219	13,305	ヤリイカ	1,393	2,619	2,048	-1,226	-655
(ハマチ)	21,527	6,795	8,616	14,732	12,911	タコ類	6,866	12,183	10,212	-5,317	-3,346
(ツバス)	56,139	327,469	132,810	-271,330	-76,671	アカエビ	81,617	55,942	58,343	25,675	23,274
(アオコ)	70,233	6,708	3,708	63,526	66,525	その他エビ	5,113	3,604	4,616	1,509	498
ヒラマサ	2,146	6,736	8,816	-4,590	-6,670	その他	53,666	59,429	75,831	-5,763	-22,165
シイラ	113,982	33,668	61,335	80,314	52,647	合 計	329,375	277,813	337,612	51,562	-8,237
サワラ	179,439	451,102	320,217	-271,663	-140,778						
サケ、マス	719	1,509	2,242	-790	-1,523	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
マダイ	6,773	7,138	3,712	-364	3,062	魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
その他タイ	5,906	5,981	1,576	-74	4,330	カジキ類	721	361	83	360	638
スズキ	2,816	3,605	2,386	-789	430	サワラ	1,115	1,177	294	-63	821
カマス	6,979	5,082	16,422	1,897	-9,443	マダイ	1,256	1,026	2,418	230	-1,163
フグ類	6,104	2,587	9,574	3,516	-3,470	キダイ	5,341	6,272	6,899	-931	-1,558
タチウオ	974	119	349	855	625	アマダイ	5,254	6,621	6,178	-1,367	-924
アオリイカ	7,830	10,758	16,688	-2,929	-8,858	メバル類	2,892	2,829	2,883	63	9
ケンサキイカ	671	908	2,077	-238	-1,406	スルメイカ	1,419	1,589	41,513	-171	-40,095
ソデイカ	960	4,577	3,231	-3,617	-2,271	アオリイカ	1,317	1,200	2,475	117	-1,158
その他	35,137	51,481	46,166	-16,344	-11,029	ケンサキイカ	2,435	87	5,982	2,348	-3,547
合 計	597,504	1,006,114	747,029	-408,610	-149,525	ソデイカ	2,135	8,400	9,828	-6,264	-7,693
						タコ類	1,187	1,145	2,089	42	-902
底びき網 (kg)						その他	27,866	24,176	36,865	3,690	-8,999
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差	合 計	52,938	54,884	117,507	-1,946	-64,569
マダイ	3,820	2,841	3,453	979	367	全漁法 (kg)					
キダイ	42,646	18,817	31,665	23,829	10,981	魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
その他タイ	2,278	1,114	890	1,164	1,388	合 計	979,817	1,338,810	1,202,148	-358,994	-222,332
アマダイ	3,265	4,379	4,017	-1,115	-752						

※1 平年の値は2007-2016年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…カマス6.5t、サワラ類4.2t、サバ類3.1t、フクラギ・コゾクラ(2kg以下のブリ)3.0t、マアジ2.4t

京都府…定置網…ツバス5.4t、サワラ類3.3t、シイラ3.0t、アカカマス0.5t、マアジ0.4t

兵庫県…定置網…カツオ683kg、マアジ121kg、マサバ42kg、ウルメイワシ22kg、ツバス2kg

鳥取県…まき網…マイワシ40.5t、カタクチイワシ14.2t、ウルメイワシ7.6t、ブリ類5.5t、マサバ3.3t、マアジ0.5t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

マハタの種苗生産順調！ 閉鎖循環飼育室作成中！

福井県での安定養殖に向け、1年間の陸上飼育で養殖用大型魚の生産へ！

今年度のマハタの種苗生産は6月9日から開始し、9月には昨年の8倍以上となる10,129尾を生産しました。これは、これまでの実施してきた飼育条件試験により最良と考えられる方法で飼育した成果と考えています。生産した魚は現在も陸上水槽で飼育を継続しており、これから閉鎖循環飼育により来年の5月まで育てていきます。

閉鎖循環飼育の大きな特徴は、飼育水を捨てずに再利用するという点であり、飼育システムの中に、糞等の固形物の除去、水に溶け込んだ汚れの浄化、魚の呼吸に必要な酸素の供給といった機能が必要になりますが、海水の使用量が非常に少ない、病気にかかりにくい、水温調整にかかるコストが大幅に削減できるというメリットがあります。特に、冬期は海水温が10℃前後まで低下し、暖海性のマハタを育てるには非常に厳しい温度となりますので、飼育水温を良い成長が得られる22℃に維持することが重要なテーマとなります。

今年度は、閉鎖循環飼育の規模を大きくし、実証化システムを作成して飼育試験を実施する計画ですが、問題はどのようにして水温を22℃に維持するかということです。一般的にはボイラーで飼育水を温める方法がとられていますが、ボイラーを使用すると、どうしても飼育コストが高くなってしまいます。これまでの研究により、飼育室内の断熱性能を高めることで、ボイラーを使うことなく飼育水温を22℃に保つことが可能であることが分かりました。そこで、現在は低コスト飼育を実現するため、断熱性能の高い閉鎖循環飼育室を作成しているところです。

場所は、吹き抜けの鉄筋スレートの飼育棟で、周りから外気が侵入する環境で、水槽はコンクリート水槽です。飼育水槽とシステムを置くスペースを冷氣から守るために、断熱材で壁と天井を作ります。まず、鉄のパイプで骨組みを作り、その周りを発泡スチロールの板で囲んでいきます。断熱効果を高めるため、隙間はできるだけ少なくし、水槽、床とも発泡スチロールをはりました。目指すは、究極の低コスト飼育です。



骨組みを作っているところ



発泡スチロールで囲む



外から見たところ

マハタ養殖試験測定速報！ 11月27日測定 順調に育っています。

1才魚（今年5月から養殖開始）	平均 858～ 896g（最大1,210g）
2才魚（養殖開始1年半程度）	平均1,068～1,421g（最大2,172g）
3才魚（養殖開始2年半程度）	平均1,277～1,629g（最大2,385g）

マハタは福井の海でも大きく育ちます。自動給餌器による毎日給餌がお勧めです。

（技術開発グループ 畑中 宏之）